

(様式3)

令和5年7月4日

宮城県議会議長 菊地 恵一 殿

宮城県議会議員
代表者(議員) 安藤 俊威

海外行政視察報告書

このことについて、下記のとおり海外行政視察を終了したので報告します。

記

- 1 期 間 令和5年6月1日から令和5年6月9日まで(9日間)
- 2 視 察 地 ロサンゼルス(アメリカ合衆国)、サンパウロ(ブラジル連邦共和国)、ホノルル(アメリカ合衆国)
- 3 構成議員 安藤 俊威、渡辺 勝幸、庄田 圭佑、柏 佑賢、太田 稔郎、境 恒春、吉川 寛康
- 4 調査目的 ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典参加とブラジル及びアメリカとの国際経済交流・海外ビジネス支援政策等の効率的な推進に資するため
- 5 事前研修等の実施状況、調査結果及び得られた成果及び県政への反映方策(詳しい調査結果は、別添報告書のとおり)
 - 1) 事前研修等の実施状況
構成議員による意見交換会 4回
構成議員の調査先事前調査による研修会 3回
 - 2) 調査結果及び得られた成果及び県政への反映方策
急激に進む人口減少社会を迎え、今後の農林水産物をはじめとした県産品や加工品の販路拡大を図っていくこと、そして、交流人口拡大に向けたインバウンド需要を獲得していくことは、どの自治体においても急務な課題となっている。今回、ブラジルのサンパウロ州、米国カリフォルニア州とハワイ州の各県人会や両国の企業・団体等を視察し、十分な意見交換の中で得られた本視察の成果をこうした本県の課題解決の一助とすべく、今後の議会内での議論に活かしていくとともに県の施策提案等にも反映できるよう努めていく。

以 上

注) 視察報告書は2部提出すること。



宮城県議会
国際経済交流・海外ビジネス支援政策等に
関する調査団報告



ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典（ブラジル宮城県人会館）にて

2023年6月1日～9日

目次

1. はじめに	1
2. スケジュール	2
3. 調査報告書	
(1) 南加宮城県人会との意見交換	3
(2) ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典	4
(3) イピランガ公園・博物館視察	5
(4) ブラジル宮城県人会との意見交換	6
(5) 在サンパウロ総領事館表敬訪問	7
(6) ジェトロ・サンパウロセンター視察	8
(7) ミツワマーケットプレイス（ワイキキ店）視察	9
(8) ハワイ州観光局表敬訪問	10
(9) ハワイ宮城県人会との意見交換	11
4. あとがき	12
【資料1】 団員名簿	14
【資料2】 アメリカ合衆国の概況について	15
【資料3】 ブラジル連邦共和国の概況について	22
【資料4】 参考資料等	30

1. はじめに

1895年（明治28年）11月5日に日伯修好通商航海条約がパリで締結され、1908年（明治41年）4月28日、ブラジルに向けて第一回目となる移民781名を乗せた笠戸丸が神戸港からサントス港に向けて出航し、以来、本県を含む多くの日本人が新たな開拓地を求めてブラジルへの移住が図られてきた経緯があり、現在では、全世界の日系人のほぼ半数となる約200万人が暮らす世界最大の日系移民コミュニティが存在する国となっている。

ブラジルへと渡った当時は、多くの日本からの移民の方々は、新たな土地で原始林を開拓して農業を振興し、自分たちで新たな町をも興していった歴史があり、特にブラジルで生まれた2世、3世への教育については大切にされてきたため、現在では、政界や官界をはじめ、医師や弁護士、教員、芸術家等、広範な分野で活躍するようになり、人口2億1,483万人で世界第7位、GDPも世界第12位となる等、ブラジルの発展に大きく貢献してきた側面がある。

また、日本人のブラジル移住を契機に、日伯交流が積極的に図られることとなり、ブラジル宮城県人会も今年で70周年を迎え、サンパウロ市内でブラジル宮城県人会創立70周年記念式典が開催されることとなった。

ブラジル宮城県人会からの本記念式典への正式な出席依頼に基づき、村井知事、菊地議長とともに議員団として現地の式典に出席し、これまでの多くの先人の活躍に思いを馳せながら、宮城県とブラジル宮城県人会の更なる交流促進と今後の新たな経済的・文化的な連携の構築を図るとともに、在サンパウロ日本総領事館ならびにジェットロ・サンパウロセンターを訪問し、ブラジル国内の現状等について調査を行うとともに、ブラジルへの日本企業の進出、農林水産物等の販路拡大等、今後の経済連携の可能性について調査を行うものである。

また、これまで宮城県及び宮城県議会と定期的な交流が図られてきたカリフォルニア州の南加宮城県人会や要望がありながら最近交流が図られていなかったハワイ宮城県人会にも訪問し、宮城の絆を再確認するとともに、両県人会が今後現地で力強いパートナーとして本県PRの情報発信源の1つになっていただけよう更なる信頼関係を構築するとともに、ハワイ州においては、かつて仙台空港からの直行便があったハワイ路線の復活の可能性も念頭に置きながら、ハワイ州の観光施策全般を担っているハワイ州観光局を表敬訪問するとともに、コロナ禍前には年間150万人もの日本人観光客が訪れるハワイにおいて、日本の食材等も取り扱っている宮城にゆかりのある現地の流通関連法人を訪問し、本県の農林水産物及び加工品等の更なる販路拡大等、今後のハワイとの経済的連携の可能性についても調査を行うものである。

2. スケジュール

現地日時			訪問先（交通手段）	調査事項
1日目	6/1(木)	10:31 12:33 17:00 11:00 13:00 16:30	仙台駅発（はやぶさ 14号） 東京駅発（成田エクスプレス 25号） 成田空港発（ANA-6[W]）／日付変更線通過 ロサンゼルス空港着 昼食（ホテル） 南加宮城県人会との意見交換会、会食 ロサンゼルス市泊（Miyako Hybrid Hotel Torrance）	民間交流調査 「今後の交流促進と更なる連携強化について」
2日目	6/2(金)	朝食 9:30 13:00 19:50	ホテル発→ロサンゼルス空港（専用車） ロサンゼルス空港発（UA-1703[Y]） ヒューストン空港発（UA-62[W]） 機内泊	
3日目	6/3(土)	7:35 11:30 14:00 18:00	サンパウロ空港着 ブラジル宮城県人会との会食 慰霊碑参拝（化ラフ公園） 夕食 ※在カパ加総領事会食（議長、団長） サンパウロ市泊（Merucure Sao paulo Paulista）	民間交流調査 「今後の交流促進と更なる連携強化について」
4日目	6/4(日)	朝食 10:00 14:30 18:00	ブラジル宮城県人会創立 70 周年記念式典、会食 イピランガ公園・博物館視察 ブラジル県人会意見交換会（会食） サンパウロ市泊（Merucure Sao paulo Paulista）	記念式典出席 民間交流調査 「今後の交流促進と更なる連携強化について」
5日目	6/5(月)	朝食 10:00 12:00 13:30 18:00 21:00	在サンパウロ日本総領事館表敬訪問 昼食 ジェットロ・サンパウロセンター視察 夕食 サンパウロ空港発（UA-148[C]） 機内泊	経済交流調査 「ブラジル経済の現状と日本との経済連携状況について」 経済交流調査 「ブラジル経済の現状と今後の経済連携の可能性について」
6日目	6/6(火)	5:35 8:30 13:15 15:00 18:00	ニューアーク空港着 ニューアーク空港発（UA-363[C]） ホノルル空港着 慰霊碑参拝 夕食 ホノルル市泊（ツィツィツ・ワイ特）	
7日目	6/7(水)	朝食 11:00 12:20 13:00 16:00	ミツワマーケットプレイス ワイキキ店視察 昼食 ハワイ州観光局表敬訪問 ハワイ宮城県人会との意見交換会、会食 ホノルル市泊（ツィツィツ・ワイ特）	県産品輸出他調査 「県産品輸出拡大等について」 経済交流調査 「本県との文化的・経済的交流の促進等について」 民間交流調査 「今後の交流促進と更なる連携強化について」
8日目	6/8(木)	朝食 11:35	ホノルル空港発（ANA - 183[C]）／日付変更線通過 機内泊	
9日目	6/9(金)	15:05 16:20 17:44 19:16	成田空港着 成田空港第1ターミナル駅発（成田Iカブ 36号） 東京駅発（はやぶさ 67号） 仙台駅着	

3. 調査報告書

(1) 南加宮城県人会との意見交換会

- ・日 時：令和5年6月1日（木）
16:30～17:30
- ・会 場：Jonse Coffee Roasters
- ・相手方：南加宮城県人会
小川桂会長、米澤義人前会長、
他 10名



海外にある宮城県人会で最も古い歴史を誇り、昨年で創立 120 周年を迎えた県人会が南加宮城県人会であり、現在も活動の一環として、90～100 名の会員が集い、新年会や七夕飾り、ピクニック、ボーリング等の親睦行事が行われている。

また、他都道府県の県人会が加わり、現地での日系社会のまとめ役となっている南加県人会協議会にも所属し、領事館との連携も図っている。

南加宮城県人会は、これまで約 30 年間もの長い間会長を務められた米澤義人氏が名誉会長に退き、新たに小川桂氏が新会長として就任し、新たな体制で活動がスタートしたところである。

12年前の東日本大震災時には、米澤前会長が中心となり、現地で義援金を募り、これまで20回を超える贈呈をいただき、ふるさと宮城の復興に寄り添っていただいた経緯にあり、議員団として今回の知事団と議長に同行し、東日本大震災への義援金に対する感謝の気持ちを直接お伝えするとともに、創立 120 周年の祝意と米澤前会長へのこれまでのご活躍やご労苦への労い、小川新会長への今後の活躍への激励をはじめ、南加宮城県人会の方々と今後の連携強化に向けた様々な情報交換を行いながら親睦を図ることができた。

また、意見交換会の席上において、2002 年の 100 周年記念時に作成され、宮城県からの移民の歴史や県人会立ち上げの経緯等、膨大で大変貴重な情報が満載された 100 周年記念誌「Centennial Celebration・The Miyagi Kenjinkai of Southern California」を頂戴した。

1902（明治 35）年夏に 16 名出席のもと南加宮城県人会が発足して以降、ふるさと宮城に思いを馳せ、現地での会員相互の親睦を図りながら、日頃からの情報発信や民間交流の拠点として、南加宮城県人会は長きにわたってその役割を果たしてきた。現在では、会員の高齢化が進み、現地の他都道府県人会でも会員の減少も課題となっており、大阪、京都、奈良各県人会では 3 府県合同の県人会「関西クラブ」に切り替わり、東北では秋田県人会が活動休止となる等、現地県人会の状況が変化してきているとともに、2世、3世の方々の今後の日系社会との繋がりを強化していくこと等も課題として受け止めているとの事であった。

従って、現在では、宮城の出身者及び宮城とゆかりのある方々のみならず、宮城に関係のある家族や友人、宮城が好きな方等も幅広く県人会の活動に参加できるよう入会条件を緩和しながら、小川新会長のもと新たなかたちで取組みを進めていること等を紹介いただいた。

宮城県と南カリフォルニアは、物理的距離こそ約9,000kmと隔てられてはいるものの、現在では1世の方々が中心となって活動していることから、帰省等も含め、度々宮城に訪れている会員の方々も多く、引き続き、宮城県との連携強化を図りながら、アメリカ本土の唯一の宮城県人会として、アメリカにおける頼れる宮城応援団体として、引き続き、宮城の情報発信等にご協力いただくことを期待するものである。

(2) ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典



- ・日 時：令和5年6月4日（日）
10:00～14:00
- ・会 場：ブラジル宮城県人会館
- ・相手方：ブラジル宮城県人会
上利 仁仔 イヅガール会長、加藤
節子氏、他約 100名

ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典がサンパウロのブラジル宮城県人会館で開催され、村井知事、菊地議長とともに議員団として参加した。

記念式典には、桑名在サンパウロ日本総領事をはじめ、原ジェトロサンパウロセンター所長、市川ブラジル都道府県連合会会長等、多くのご来賓にも出席いただき、約100名の県人会員の皆さまや県人会関係者と共に、創立70周年記念式典開催の喜びを共有した。特に、現職知事の久しぶりのブラジル宮城県人会訪問とあって、出席者全員からの大変温かい歓待を受け、終始なごやかな雰囲気の中で記念式典が進められた。

ブラジル宮城県人会の現在の会長は、日系3世で40代の比較的若い上利会長が務めており、世代交代がうまく図られている印象を受けた。一方、ブラジル宮城県人会の現状の課題は、やはり会員の高齢化にあり、他都道府県県人会等とも連携を図りながら、若い世代の会員拡大を課題としている様子であった。また、日本と同様、ブラジル社会では高齢化が急速に進んでおり、社会問題の1つとして取り上げられており、現在、仙台市に拠点を置く(株)ゆらリズムがJICAの草の根技術協力事業を活用してサンパウロ市内で取り組みをはじめた「音楽リハビリ」の手法を用いた介護予防モデルの構築事業にブラジル宮城県人会も参画し、高齢化の課題解決に向けた取組みを前向きに進めているとの事であった。

ブラジル宮城県人会の記念式典は5年毎に現地のブラジル県人会館で開催されており、宮城県議会としても定期的に参加してきた経緯にあり、これまでも宮城県とブラジルとの懸け橋としてご尽力いただいていたブラジル宮城県人会が今後も様々な課題を克服しながら、更

に発展することを祈念するとともに、ブラジル国内において、引き続き、宮城県の文化継承、観光PR等の拠点としての役割にご協力いただくことを期待したい。

(3) イピランガ公園・博物館視察

- ・日 時：令和5年6月4日（日）
14:30～16:00
- ・場 所：イピランガ博物館
- ・相手方：ブラジル宮城県人会
上利 任伊 ズガール会長、加藤節子氏、
他5名

ブラジル宮城県人会の方々のご案内で、サンパウロのイピランガの丘にあるイピランガ博物館を視察した。

1822年にドン・ペドロ1世がポルトガル本国に対して独立を宣誓した由緒ある場所がイピランガ公園であり、園内には1895年に建てられた博物館や独立100周年にあたる1922年に建立された独立記念塔等があり、多くの観光客で賑わっていた。

イピランガの丘にあるこの博物館はパウリスタ博物館という名前でも知られ、1895年9月7日に開業して以来、貴重な歴史的遺物等を集めており、サンパウロ市の歴史的名所の1つにも数えられている。その後、2013年に改修のため閉鎖されたものの、資金確保等の問題のため改修工事は遅れ、独立200周年には再開したいとの国民の強い願いから、独立200周年記念行事の1つとして進捗を図り、昨年の独立記念日の9月7日にあわせて再び開館されることになったとの事であった。

現在、この博物館はサンパウロ州が管理し、サンパウロ大学が運営委任されており、広い館内は短い時間では回り切れないほどの多くの歴史的絵画や資料、品物等が多く展示されているとともに、エレベータや屋上展望台の設置等、建物内の大規模修繕を行いながら、館内環境の整備が図られていた。

更に、説明ガイドは主にサンパウロ大学の学生が担っており、来館者へブラジルの歴史や文化をはじめ、多くの展示品の説明等を行うとともに、サンパウロの歴史や伝統などをしっかりと若い世代に着実に継承される仕組みが作られているようにも感じられた。

また、この博物館の周辺には、ヴェルサイユ宮殿を模して造られた庭園や噴水等もあり、カップルや家族連れ等、観光客以外の多くの地元のサンパウロ市民が日頃から訪れているとの事であり、名実ともにサンパウロ市民の憩いの場にもなっていた。



ヨーロッパ文化の影響を残しつつ、ブラジル独自の文化を構築してきたこれまでの歴史経過やブラジルの建造物に対するポリシー等もしっかり把握でき、ブラジルをより詳しく知ることができた。

館内視察をご提案いただき同行いただいたブラジル宮城県人会の皆さまに感謝申し上げます。

(4) ブラジル宮城県人会との意見交換



- ・日 時：令和5年6月4日（日）
18:00～20:00
- ・会 場：ユウカリア Bovinus-Reboucas
- ・相手方：ブラジル宮城県人会
上利 仁伊 伊ガール会長、加藤
節子氏、他5名

訪問当日から何かとお世話になった
ブラジル宮城県人会主催の夕食会に出

席し、70周年記念式典のご労苦を労うとともに、忌憚のない意見交換も行いながら、今後の更なる連携の必要性を共有することができた。

席上、ブラジルでの他県人会に比べると比較的若い上利会長を先頭に、会員一丸となって、七夕飾り作りや日本祭り、敬老祝賀会、婦人部の料理会等の定例行事に加え、最近では、東京・埼玉・宮城の3都県人会合同での屋台祭り等、新たな活動も取り入れながら、会員相互の親睦が図られていることの紹介があった。

ブラジルは、日本との距離が最も遠く、直行便もないことから、ふるさと宮城への帰省はあまり行われていない様子であり、今の世代となっている3世、4世の方々の日本との今後の繋がりを考えた場合、かつて行政の支援制度で行われていた日本への帰省の取組み等もあれば有難いといった話も伺ったところである。

ブラジル宮城県人会では、会員の高齢化や4世等の若い世代への会員拡大等、現在抱えている課題があり、特に、若い世代の会員拡大については、宮城県人会単独での取組みを越えて、他都道府県人会との合同行事の開催等、相互の連携を図りながら今後取り組んでいきたいといった前向きな話も伺ったところである。

また、日本と同様、ブラジルでも高齢化が急速に進んでおり、前述のとおり、現在、JICAの草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業として、昨年度から今年度末にかけて、サンパウロ市における音楽リハビリを活用した介護予防モデル構築事業にブラジル宮城県人会も参加し、介護予防の実施モデルが構築を目指しているとの話を伺った。なお、この介護予防

モデル構築事業を行っているのが、仙台市に本社を置く（株）ゆらリズムであった点にも運命を感じるものがあった。

ブラジルでは、日本とは違い国の介護保険制度がなく、国民の介護予防に関する意識も低いとされており、介護予防等を担う地域ボランティアが強く求められているとの事でもあるため、この介護予防モデル構築事業を通じて、現地の課題の1つである高齢化の問題が少しでも軽減され、引き続き、上利会長を先頭に、ブラジル宮城県人会が更に発展することを期待したい。

(5) 在サンパウロ総領事館表敬訪問

- ・日 時：令和5年6月5日（月）
10:00～11:00
- ・場 所：在サンパウロ日本総領事館
- ・相手方：桑名良輔総領事、穴戸孝志領事、
他1名



在サンパウロ総領事館を表敬訪問し、桑名総領事をはじめ総領事館の方々からブラジルの現状等について説明を受け、日本（宮城県）との今後の連携の重要性等について意見交換を行った。

ブラジルは、これまでの多くの日本人移民の長年にわたる尽力もあり、大豆、砂糖、コーヒー豆、各種野菜等の生産が盛んで農業大国になっているとともに、鉄鉱石や石油、レアメタルの生産量も世界トップクラスを誇り、資源的に大変豊かで先進7ヶ国に次ぐ経済大国でもある。

また、広大な土地を背景に、サトウキビの植物油を原料としたバイオ燃料による発電が世界第一位であるとともに、大河等での水力発電も充実しており、ブラジル国内での総発電量に占める再生可能エネルギーの割合は85%以上と中国、米国に次ぐ規模になっているとともに、サトウキビの植物油をエタノールとして自動車の燃油にも用いており、ブラジルではガソリンとエタノールのどちらの燃料も使用可能なエンジンを積んだハイブリッド車が主流になっているとの事であった。

また、小型ジェット市場においても、エンブラエルが世界上位のシェアを誇るとともに、自動車生産台数も世界トップ10の位置付けとなる等、工業面でも充実した経済大国となっている。

ブラジルは、かつての奴隷制度を廃止し、それに代わって移民の労働力確保に舵を切った歴史経過にあり、多くの日本人も海を渡ってブラジルに入り、日本人の誠実さと勤勉さ等も相まって、土地の開拓や町の振興をはじめ、現地での野菜の普及や様々な事業の拡大等で成功

を収め、ブラジル人にとっては、現在も含め、日本人ならびに日系人は尊敬の対象とされてきた経緯にあるとの事であった。

また、心配されている治安についても報道されているほど悪化はしておらず、高級品等を目に見える形でむやみに持ち歩かない、リュック・かばんは抱えて持つようにする等の最低限の治安対策で特に大きな問題はないとの事でもあった。

ブラジルは、発展途上国ではあるものの、既にG7に次ぐ経済力を有しており、今後の市場規模も大きな拡大が期待されていることから、桑名総領事からは、今後も日本（宮城県）との良きパートナーとして連携・協力を深めていくべき対象国であることの説明を受け、今後の連携の可能性を議会の中でも積極的に議論していきたい。

(6) ジェトロ・サンパウロセンター視察



- ・日 時：令和5年6月5日（月）
13:30～14:30
- ・会 場：ジェトロ・サンパウロセンター
- ・相手方：原宏所長、他1名

ジェトロ・サンパウロセンターを訪問し、ブラジルの現状と現在取り組みを進めている主な内容等について説明を受け、

具体の連携の可能性等についても意見交換を行った。

ブラジルは、世界第5位の面積（日本の約22.5倍）を誇り、人口も2億1,483万人と世界第7位の現状にある。GDPも世界第12位（日本の約3割の規模）で、世界の日系人の約半分となる約200万人が暮らす世界最大の日系移民コミュニティが存在している国である。

国内では大きく5つに区分され、サンパウロ州やリオデジャネイロ州が含まれる南東部が最も発展しており、この地区が国のGDPの半分を占めており、所得水準においては、国の最低賃金の約20倍以上の平均賃金月額の高額所得者は国全体で約3%と限られてはいるものの、最低賃金の約5倍から約20倍までの中間層は年々拡大してきており、いわゆる高所得者層のマーケットが注目されているとの事であった。

また、トヨタやホンダをはじめ、ヤクルト、日清食品等多くの日系企業が進出しており、ブラジル投資の環境面のメリットとしては、市場規模や成長性が圧倒的に高く、日系人に対する信頼・尊敬の影響からか、駐在員の生活環境面の良さが次に挙げられる等、他国にはない地域性の利点が大きな特徴とであると事であった。

ブラジルは、起業が進んでいる国の1つであり、創業10年以内で評価額10億ドル以上である未上場の企業、いわゆるユニコーン企業はブラジル国内に23社も存在しており、日本

企業にも大きなチャンスが潜在化しているため、現在、ジェットロ・サンパウロセンターでは、イノベーションに力を入れ、ブラジル企業と日本企業との連携強化をはじめ、日本企業のブラジルでの起業等も推進しているとの事であった。

現在、本県でもテック系企業のスタートアップ事業の取組みを支援しているが、今後は海外進出も視野に入れながら、特にブラジルでの取組みは大きな可能性を秘めているとの認識のもと、チャレンジを促進して実績に繋がられるよう取組みを進めていく必要があり、そのためにも、本県にも設置されているジェットロ仙台を窓口にしなが、ジェットロ・サンパウロセンターとの連携を図っていく必要性を強く感じた。

(7) ミツワマーケットプレイス（ワイキキ店）視察

- ・日 時：令和5年6月7日（水）
11:00～12:00
- ・場 所：ミツワマーケットプレイス
ワイキキ店
- ・相手方：伊妻社長、濱松ゼネラルマネージャー、他2名



カメイ（株）の海外企業グループであるミツワマーケットプレイス・ワイキキ店を訪問し、ハワイにおける日本食ニーズの現状、日本食の供給体制の課題等について伊妻社長はじめミツワマーケットプレイス役員の方々と意見交換を行った。

1979年にヤオハングループ傘下のヤオハンUSA社がアメリカカリフォルニア州のフレズノ市にスーパーマーケットを開業し、その後、全米各地に店舗を拡大し、事業拡大を図っていたものの、1997年にヤオハン・ジャパンが経営破綻し、ヤオハンUSAの幹部社員が会社を買収し事業継続が図られた経緯にある。

その後、2012年12月にカメイ（株）が企業買収し、現在までカリフォルニア州に7店舗、イリノイ州、ニュージャージー州、テキサス州、ハワイ州に各1店舗の合計11店舗にて北米事業の中核企業として日本食料品スーパーマーケットを中心とした事業を展開している。

今回訪問したミツワマーケットプレイス・ワイキキ店は、2017年5月にホノルル市内の中心部にあるインターナショナル・マーケットプレイス内にオープンし、日本食品や総菜等を販売するとともに、日本企業をフードコートテナントとして招聘し、現在は、ハワイで人気のラーメン店を提供する等、現地における日本食の潜在力を引き出しなが、日本食の更なる普及にも取り組んでいる様子であった。

ここ数年は、コロナ過で日本人観光客が激減した状態が続いており、昨年暮れ頃からようやく日本からの観光客が戻ってくるようになったものの、コロナ禍前のピーク時に比べるとま

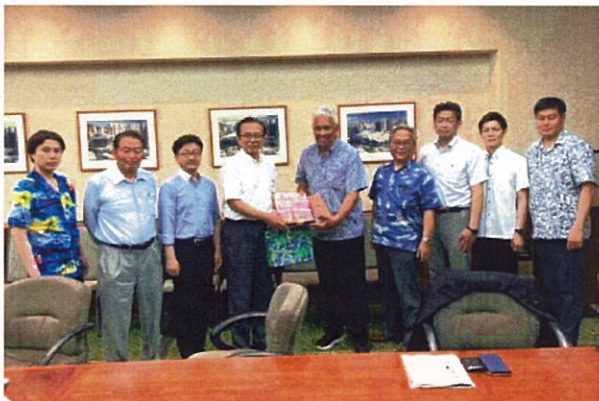
だ2、3割程度に留まっているとの事であり、今後の更なる日本人観光客の増加を期待している様子であった。

また、ハワイをはじめアメリカでは、現在、日本食が大変な人気であり、昔に比べると価格も下がったこともあり、宮城県産品の中では特に宮城県産米「ひとめぼれ」が人気であるとの事であり、潜在需要はまだまだありそうであるとの事でもあった。

アメリカ本土のトランス店等の3店舗においては、現在、宮城フェアを開催しており、宮城県に本社のあるカメイ（株）との関係性からもミツワマーケットプレイスでは、人気上昇してきている宮城をはじめとした東北の食材提供の拡大に今後取り組んでいきたいとの有難い話も頂戴した。

一方、いちご、メロン、かき以外のフルーツについては、現在も日本からの輸出規制の対象となっているため、今後の規制緩和に向けた国を挙げた本格的な対応が待たれているとともに、日本とは対照的に積極的なロビー活動を行っている韓国との差がかなり大きいため、アメリカにおける今後の日本食品の販路拡大の課題となっているとの事でもあり、今後の大きな課題の1つとして認識した。

(8) ハワイ州観光局表敬訪問



- ・日 時：令和5年6月7日（水）
13:00～14:00
- ・会 場：コンベンションセンター
会議室
- ・相手方：ハワイ観光局（HTA）
ジョン・デ・フリース社長兼最
高責任者、他2名

ハワイ観光局（HTA）を表敬訪問し、ジョン・デ・フリース社長兼最高責任者をはじめ、HTAの支局となるハワイツーリズム日本支局（HTJ）の役員にも同席いただき、英字の観光パンフレットを活用し、宮城県のPRを行うとともに、今後の宮城県との連携の可能性等について意見交換を行った。

まずは、宮城県の紹介に対しては、郷土の祖先の象徴として宮城県には伊達政宗公がおり、ハワイにはハワイ統一を成し遂げ平和を確立したカメハメハ大王が存在すること、ハワイにはペレが居るとされ、パワースポットのマウナケアが存在し、宮城県にはお釜でも有名な蔵王山があり、同じような強いパワーが感じられること等、ジョン・デ・フリース社長兼最高責任者からハワイと宮城県には地形的にも文化的にも共通性があるとの感想をいただいた。

また、ハワイには、毎年世界各国から多くの観光客が訪れているが、ハワイアンが持つ自然や祖先を大切に作るポリシーに唯一共感してくれるのが日本人であり、ハワイの自然やハワ

イアンのポリシー等を大切にし、ハワイに尊敬の念を持ち、洗練されているのが日本人であるため、多くのハワイアンは日本人を大切なパートナーとして受け止めており、再び多くの日本人観光客の訪問を期待しているとの事であった。

ハワイ観光局（HTA）は、1998年に創設され、ハワイ州の観光・旅行業を管理しており、その管理経費はハワイ州のホテル税によって成り立っている。

また、ハワイ観光局（HTA）は創設以来一貫して、経済目標、文化価値、自然資源の保護、地域社会との協調、観光需要に対応した持続可能な観光戦略に取り組んでおり、宮城県としてもハワイツーリズム日本支局（HTJ）を通じながら、今後様々な連携を深めていくこと等を検討していくこととしたい。

（9）ハワイ宮城県人会との意見交換

- ・日 時：令和5年6月7日（水）
16:00～19:00
- ・場 所：天台宗ハワイ別院 会議室
- ・相手方：ハワイ宮城県人会
亀井由美子会長、田中祥順住職、他 20名



ハワイ宮城県人会の亀井会長をはじめ、県人会の皆さまとホノルル郊外にある天台宗別院をお借りして意見交換を行い、その後、引き続きのホームパーティー形式での食事会を行った。

会場となった天台宗別院は、前宮城県人会の会長の荒了寛住職が建立した建物であり、荒了寛住職は天台宗ハワイ開教総長として、ハワイをはじめアメリカ本土にも布教活動を行いながら、ハワイを中心に日本文化の紹介と普及等にも尽力され、また、独自の画法による仏画も描き、日本も含む多くの国々で個展も開催する等、日本でも大変有名な方であり、2019年1月にご逝去されたとの事であった。

意見交換前には、村井知事、菊地議長をはじめ、視察団も同席させていただき法要を執り行い、これまでのご尽力に感謝の気持ちを伝えるとともにご冥福をお祈りした。

その後の意見交換では、十数名のハワイ宮城県人会の方々にお越しいただき、現地で生活した中で感じてきた様々な貴重な話を伺うことができた。

ハワイ宮城県人会は、30名ほどの会員で、総会、七夕会、芋煮会、忘年会等、定期的に親睦行事を開催しており、また、会員全員が一世代であるため、慣例に依存することなく気さくな雰囲気の中で交流が深められているとともに、宮城への帰省もそれぞれ定期的に行われており、今回訪問した他国の県人会とは違った雰囲気のある県人会といった印象であった。

ハワイ宮城県人会の皆さまから、宮城県議会との今後の定期的な交流・情報交換等の要望もあったことから、宮城県とハワイとの関係性を更に深めていくためにも、今後もハワイ宮城県人会との皆さまとの連携をより充実させていくこととし、良きパートナーとして今まで以上に、ハワイにおける宮城県の積極的なPRをはじめ、様々な経済的、文化的交流を深めていくこととしたい。

4. あとがき

ブラジル宮城県人会創立70周年記念式典に参加し、改めて、ブラジルへ移り、様々な困難にも立ち向かい尽力されてきた先人の活躍、功績に触れながら、ブラジル社会における日系人の存在意義の大きさを再認識する機会をいただくとともに、今後ブラジルとの経済的、文化的連携拡大に向けて大きな可能性を秘めていること等も認識することができた。

また、今回の視察で、カリフォルニア州の南加宮城県人会、サンパウロ州のブラジル宮城県人会、ハワイ州のハワイ宮城県人会にそれぞれ訪問し、慰霊碑を訪れて新たな土地に移られ、様々な課題に尽力されてこられた故人の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、それぞれの県人会の方々との意見交換をさせていただいた。

3つの県人会ともに、ふるさと宮城に対する想いは共通しており、12年前の東日本大震災の際にも様々な形で義援金を募っていただく等、これまでも大変お世話にもなっている。意見交換の中では、現地の人が好む日本の食材や伝統・文化等について率直に伺うとともに、地域によっては買い物をする際に割と高級志向で、販売側が意識する商品コストはあまり関係なく、むしろ商品のクオリティーや更なる付加価値の向上を強く望むユーザーが多い等、現地に暮らしている人達だからこそ知り得る現地のマーケットの特性等も伺うことができた。

ふるさと宮城を大切に想ってくれているからこそ成し得るこうした貴重なアドバイスをいただき、改めて、各県人会との今後引き続きの定期的な情報交換の必要性を強く認識する機会にもなった。

また、ブラジルは、2000年代以降に著しい発展を遂げた4ヶ国(BRICs)の1つであり、視察報告にも記述のとおり、現在もなお大きな発展を遂げている農業大国であり、経済大国でもある。現在、ジェトロ・サンパウロセンターで注力しているイノベーションの取組みについては大変興味深く、ブラジル企業と日本企業との連携、そして、ブラジルでの起業には大きな可能性があると感じた。特に、ブラジルは、起業が進んでいる国の1つであり、創業10年以内で評価額10億ドル以上である未上場の企業、いわゆるユニコーン企業は23社も存在していることは大いに注目すべき点であり、投資実績のスケールの大きさ等も加味すると、ベンチャーも含め、今後の起業フィールドの視野を世界にまで広げ、ブラジルもチャレンジすべき対象国の有力な国の1つであることを認識しながら、今後の検討を進めていく必要があると感じた。そのためにも、現在、宮城県で取り組みをスタートさせたテック系企業のスタートアップ事業の取組みについても、今後近い将来にブラジル市場での取組みも視野に入れながら、前向きに検討していく必要があり、そのためにも、ジェトロ仙

台を窓口としてジェトロ・サンパウロセンターとの連携についても前向きに検討していく必要があると強く感じた。

ハワイでは、日本食が大変人気で、多くの日本人に好まれている一大リゾート地であることから、自慢の宮城の食材を積極的に現地で販売・展開していく余地は大いにあると感じられた。ハワイ宮城県人会との意見交換の中では、ハワイアンは高級志向の人が割と多く、値段のハンデはあまり考える必要がないこと、他都道府県では、これまで積極的に現地のスーパーマーケット等で食材のPR等を展開しているが、宮城県産の取組みはあまり見たことがないとの指摘もあったことから、今回の訪問を機にハワイも大きな販路拡大のターゲットの1つとして、宮城の食材PRを積極的に進め、農林水産物等の海外への輸出拡大を図っていくべきと感じた。

また、ハワイではご飯等に振りかける「ふりかけ」やだしを取る「昆布」が人気であるとの事であり、現地の市場ニーズをしっかりと調査しながら、売り手の目線だけではなく、県人会の方々のアドバイス等も活かした市場目線を強く意識した新たな販売戦略が必要である事も強く感じた。

そして、海外では日本の祭りが人気であるとともに、「日本」が重要であって、「都市の規模や認知度」は海外の人達からすればあまり重要な要素ではないとの事であるため、海外での様々なイベントの場等を通じて、仙台のすずめ踊りや県内各地の伝統舞踊の演技等、宮城の伝統・文化を海外でも積極的に広く発信し、「日本の宮城」を強くアピールしていくとともに、イベントを見た方々が「今度は実際に宮城県に行って本物を是非見て体感したい」といった欲求を掻き立てるようなイベントプロデュースも積極的に仕掛けていく必要もあるよう感じられた。特に、毎年3月後半に開催されているホノルルフェスティバルには、ねぶたや竿灯、山形の花笠踊り等も参加しており、宮城県としても絶好のアピールの場を逸さないよう早期の参加を前向きに検討すべきである。

何事も「郷に入りては、郷に従え」であり、「百聞は一見に如かず」である。今回の海外視察を通じて、「見て」、「触れ」、「感じ」得られた様々な視察の成果を今後の県の施策推進の一助とすべく、議会の中での議論にも活かしていくとともに、県の施策提案等にも反映できるよう努めていくこととしたい。